

平成 29 年度 第 6 回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 29 日（木）

14 時 00 分～16 時 00 分

場所：勤労者福祉会館 5 階 第 2 教室

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 議 事

鈴鹿川水系（指定区間）の河川整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- 矢板前面に景観面に配慮した植生やパネルを設置するとあるが、植生は外来種を用いることが多く、また、パネルは明らかな人工物とわかるようなものであれば、植生やパネル設置を行わないほうがよい。
- 鈴鹿山脈は地質面から斜面崩壊が起りやすいと考えられ、洪水時の流木の発生源となる恐れがあるため、過去の斜面崩壊の有無を含め、それらの対策を整備計画に反映させていただきたい。
- 計画断面については、背後地の状況や河道法線等を踏まえて環境に配慮する箇所、土砂堆積を抑制する箇所等、河川の特性に配慮した事業実施を行うことを整備計画に反映させていただきたい。

神内川水系の河川整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- 基本方針河道の掘削イメージ図についても、整備計画河道のように環境に配慮し平坦にしない横断面図に統一した方がよい。
- 三重県内の河川の改修では、法面にコンクリートのプレートを張るような、生態系を考慮していない工法が見受けられるので、配慮して頂きたい。
- 法面の状況は魚だけでなく、植物等の生態系にも影響を与えるので、配慮して頂きたい。
- 流域の危険度の調査をして、洪水だけでなく河川に流れ込んでくる様々なものを考えて、住民の方々に安全に暮らしていただけるような整備計画を作ってほしい。例えば、過去の斜面崩壊の有無を含め、それらの対策を整備計画に反映させていただきたい。
- アンケートにおいて水質について多くの住民が気にしている。現地視察の際に防潮水門の周辺が汚れていると感じた。土地利用の変遷では市街地が進み、田んぼが減っており、特に下流部の水田が減っている。水門操作により塩害に対する効果が得られるのであれば改築と併せて運用面も考えて頂きたい。また、地域の方々と話をしたり、塩害についても調査を行っていただき、水質を良くする方法を考えていただきたい。
- 下流部の河道整備により、浸水被害が発生している中流部の被害軽減に効果があることは、地域住民に対してもうまく説明する必要がある。

4. 閉 会